

JCES ニュース

Japan Comparative Education Society**NO.33**

会長就任にあたって

日本比較教育学会 会長 杉村 美紀

このたび第16代の日本比較教育学会会長を拝命いたしました杉村美紀と申します。会長に就任させていただくにあたりましては、数多の会員のご活躍を考えれば考えるほど我が身の未熟さを顧みることとなり、様々な思いが胸をよぎりました。しかしながら、1985年に学会に入会させていただき、これまで比較教育学会に育てていただいた御恩に少しでもお返しができるようにと思い、本当に微力ではございますが、精いっぱい務めさせていただければと考えた次第です。歴代の会長の先生方のご偉業の数々は、どれも浅学の身としてはとても届かないものばかりですが、学会の発展に少しでも寄与できますよう、一步一步進んで行きたいと思っております。



日本比較教育学会は1965年の学会発足時から50年余りの歴史を重ね、今日では約1000名の会員を擁する学術研究団体に成長しました。教育学の分野には、実に多くの様々な専門学会がありますが、そのなかにあつて日本比較教育学会は、比較研究という方法論をひとつの土台におきながら、研究対象とする地域性や研究内容の多様性という点では、まさに教育学関連の学会相互のつながりを果たす機能を有している学会であると考えます。また、研究方法論を支えるディシプリンにおいても、様々な価値体系や意味体系が交錯する分野であり、それゆえに実に多様なフィールドが目の前に広がっています。ここ最近の比較教育学会の大会では、こうした多様性をもつ学会の特性がいかに発揮され、いろいろな教育研究が展開されています。なかでも、比較教育学会がぜひ大切にすべきであるとするのは、教育学がもつ規範と実践の両面を常に多角的に吟味すること、ならびに教育という複雑な事象を読み解くにあたり、時に他の学会や研究分野の成果とも協働しながら、教育が持つ様々な可能性を発掘していくことではないかと考えます。

こうした豊かな研究の土壌を育むにあたっては、これまでも多くの会員のご尽力があつたわけですが、今般、事務局をお預かりする立場として、より実り多い研究交流を可能にする温かな雰囲気と人のつながりを大切にしたいと考えております。また、学会の研究活動や成果を積極的に国内外に発信していくことで、新たな交流ネットワークを拡充することにも挑戦していきたいと考えております。幸い、杉本均第15代会長の時に着手された50周年を記念する一連の事業や学会紀要掲載論文の英訳と交流事業は、いずれも学会の研究成果を様々なかたちで国内外に発信し新たな連携を築くものであり、2017年度～2019年度の今期においては、これら事業の遂行をバックアップしていきたいと思っております。また学会には様々な立場の方が参加してくださっていることに鑑み、今後もより多くの方が参加しやすい制度づくりを心がけたいと考えております。

いずれの取り組みも、会員並びに比較教育学にご関心をお持ちくださっている皆様のご理解とご協力無しには為し得ないものであり、皆様からの忌憚のないご指導を賜りながら、微力ながら一杯務めてまいりたいと思っておりますので、なにとぞどうぞよろしくお願い申し上げます。

第53回大会を終えて

大会準備委員会委員長 恒吉 僚子

2017年6月23日から25日にかけて東京大学本郷キャンパスにおいて第53回大会が行われました。第53回大会では、耐震工事が終わったばかりで、まだ一部しか入室が可能でなかった教育学研究科の教室を使うことができず、他学部の教室を借りての大会となり、会員の方々にはご不自由をおかけしたところもあるかと思えます。そうした中、464名（公開シンポジウムのみ参加者を除く）のご参加をいただきまして無事大会を終えることができ、大変感謝いたしております。

第53回大会におきましては、初日のラウンドテーブルには10件、自由研究発表には150件の申し込みがありました。自由研究発表は2日間で4つの発表時間帯を設定し、35部会が開催されました。うち、5つは英語部会でした。加えて、公開シンポジウム、そして2つの課題研究が設置され、活発な議論が行われました。

本大会における公開シンポジウムは、東京大学教育学研究科附属の学校教育高度化・効果検証センターとの共催で、「教育モデルが国境を越える時代を俯瞰する—比較教育学の原点にもどる (<https://goo.gl/8EncKa>)」のテーマのもと、海外からの招聘者を含めて、様々な教育モデルが国民国家の枠を越えて今まで以上に容易にグローバルに拡散してゆく時代における教育トランスファー、教育借用について議論しました。ある国から生まれたモデルが、グローバル化、あるいは、かつてない規模で他国に移植される時代の教育トランスファー、教育借用をどう考えるのか。こうした問いをフィンランドのRiitta Vänskä氏 (Education Export)、シンガポールのGoh Chor Boon氏 (シンガポール国立教育研究所)、日本からは佐藤学氏 (学習院大学)、そして指定討論者として丸山英樹会員 (上智大学) によって問題提起を受けての議論がされました。司会は恒吉がさせていただきました。

課題研究は、まず、研究委員会企画「グローバル化における教育を考える (Ⅱ) —才能教育の視点から」が開催されました。研究委員会では、才能教育をテーマに数年間、継続して議論がなされてきました。今回は、山内乾史研究委員長 (神戸大学) の司会の下、南部広孝 (京都大学)、石川裕之 (畿央大学)、原清治 (佛教大学) 各会員による発表が行われました。もうひとつは、大会校により、「グローバル化における大学の国際比較—世界大学ランキングを越えて」を企画しました。昨今激化する大学の国際競争を、比較教育学の視点から冷静に見つめ直したいとの意図から企画を行いました。大学の国際比較研究に精力的に取り組んでおられる、石川真由美 (大阪大学)、吉永契一郎 (金沢大学)、米澤彰純 (東北大学) の3名の会員にご登壇いただき、大会校の福留東土が司会を担当しました。課題研究は大会最終日の午後の開催となりましたが、ともに多くの参加者が会場に集まり、活発な議論が展開されました。

情報交換会では、250名以上の方にご参加いただき、盛会となりました。参加者の国籍も多様であり、会場のあちらこちらで日本語以外の言語での会話が盛り上がっていた様子も、比較教育学会らしさをとても感じました。

多くの方々のご努力によって無事大会が終わりましたことをスタッフ一同、感謝いたします。

< 第53回大会の各会場風景 >



公開シンポジウム (安田講堂)



公開シンポジウム登壇者



課題研究I



懇親会の様子



課題研究II



課題研究II

次回第 54 回大会のご案内
大会日時：2018 年 6 月 22 日 (金)、23 日 (土)、24 日 (日)
開催場所：東広島芸術文化ホール くらら 〒739-0015 広島県東広島市西条栄町 7 番 19 号
大会準備委員会：吉田和浩 (委員長)、中矢礼美 (事務局長)
事務局連絡先：〒739-8529 東広島市鏡山 1-5-1 広島大学教育開発国際協力研究センター内
日本比較教育学会第 54 回大会準備委員会 E-mail: jces54kurara@gmail.com

日本比較教育学会役員一覧 (2017～2019 年度)

- 会 長 杉村 美紀 (上智大学)
- 事務局長 丸山 英樹 (上智大学)
- 理事 (○印は常任理事)
- 〔北海道・東北地区〕(2名)
- 杉本 和弘 (東北大学)
- 宮腰 英一 (東北大学)
- 〔関東地区〕(15名)
- 池田 賢市 (中央大学)
- 一見真理子 (国立教育政策研究所)
- 江原 裕美 (帝京大学)
- 北村 友人 (東京大学)
- 黒田 一雄 (早稲田大学)
- 近藤 孝弘 (早稲田大学)
- 澤野由紀子 (聖心女子大学)
- 杉村 美紀 (上智大学)
- 長島 啓記 (早稲田大学)
- 深堀 聰子 (国立教育政策研究所)
- 福留 東土 (東京大学)
- 藤井 穂高 (筑波大学)
- 丸山 英樹 (上智大学)
- 嶺井 明子 (筑波大学)
- 森下 稔 (東京海洋大学)
- 〔東海・北陸地区〕(3名)
- 二井紀美子 (愛知教育大学)
- 服部 美奈 (名古屋大学)
- 山田 肖子 (名古屋大学)
- 〔近畿地区〕(6名)
- 乾 美紀 (兵庫県立大学)
- 澤村 信英 (大阪大学)
- 杉本 均 (京都大学)
- 近田 政博 (神戸大学)
- 南部 広孝 (京都大学)
- 山内 乾史 (神戸大学)
- 〔中国・四国地区〕(3名)
- 小川 佳万 (広島大学)
- 日下部達哉 (広島大学)
- 吉田 和浩 (広島大学)
- 〔九州地区〕(2名)
- 竹熊 尚夫 (九州大学)
- 平田 利文 (大分大学)
- 監査
- 木戸 裕 (元国立国会図書館)
- 牛田 千鶴 (南山大学)
- WCCES 担当理事 杉村 美紀
- 幹事 (○印は常任幹事)
- 〔北海道・東北地区〕
- 井本 佳宏 (東北大学)
- 〔関東地区〕
- 川口 純 (筑波大学)
- 菊地かおり (筑波大学)
- 山崎 瑛莉 (上智大学)
- 〔東海・北陸地区〕
- カンピラパーブ・スネート (名古屋大学)
- 〔近畿地区〕
- 中島 悠介 (大阪大谷大学)
- 〔中国・四国地区〕
- 植村 広美 (県立広島大学)
- 〔九州地区〕
- 坂本真由美 (中村学園大学)
- 平塚賞運営委員会 (10名)
- 委員長 服部 美奈
- 委員 江原 裕美、小川 佳万、
日下部達哉、近藤 孝弘、
杉村 美紀、竹熊 尚夫、
宮腰 英一、嶺井 明子、
森下 稔
- 紀要編集委員会 (14名)
- 委員長 日下部達哉
- 副委員長 澤村 信英
- 委員 伊井 義人、江原 裕美、
佐藤 仁、杉本 均、
竹熊 尚夫、中矢 礼美、
長島 啓記、二井紀美子、
日暮トモ子、福留 東土、
見原 礼子、山口しのぶ
編集幹事 牧 貴愛 (前期)
金子 聖子 (後期)
- 研究委員会 (7名)
- 委員長 森下 稔
- 委員 市川 桂、乾 美紀
鴨川 明子、北村 友人、
南部 広孝、渡邊 あや
- 国際交流委員会 (5名)
- 委員長 黒田 一雄
- 委員 林 真樹子、丸山 英樹、
山田 肖子、米原 あき
- RICE 担当理事 山内 乾史
- 教育学関連学会協議会担当理事 澤野由紀子

総会議事次第（日本比較教育学会第53回大会）

日時：2017年6月24日（土）17：30～18：30

場所：東京大学安田講堂

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 大会開催校代表挨拶
4. 議長団選出
5. 2016年度事業報告（事務局、各種委員会）
6. 2016年度決算報告および監査報告
7. 『リーディングス 比較教育学』について
8. 紀要既掲載日本語投稿論文の英訳及び学会ホームページでの公開について
9. 選挙管理委員会報告
10. 会長退任挨拶
11. 新会長挨拶
12. 2017年度事業計画（事務局、各種委員会）
13. 監査の委嘱について
14. 2017年度予算案
15. 第54回大会開催校について
16. 閉会の辞

新委員会委員長からのご挨拶

●平塚賞運営委員会 委員長 服部 美奈
 杉村新会長のもと、平塚賞運営委員会委員長を拝命いたしました。これから3年間、どうぞよろしくお願ひいたします。平塚賞運営委員会は今年度も下記の要領で第28回平塚賞の候補作品を募集します。応募は自薦・他薦を問いません。ふるってご応募ください。応募要領の詳細は日本比較教育学会ホームページまたは紀要巻末掲載の「日本比較教育学会平塚賞規定」をご参照ください。

記

1. 対象作品：2017年1月～12月に公刊された比較教育学に関する著書・論文(分担執筆を含む。ただし連名のものを除く)。
2. 応募要領：本学会ホームページ掲載の「平塚賞候補著書・論文推薦書」(MS-Word、PDF)に必要な事項を記入し、当該著書・論文1部とともに提出すること。
3. 締め切り：2018年1月15日(必着)

4. 送付先：
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-1
第2ユニオンビル4F(株)ガリレオ気付
日本比較教育学会・平塚賞運営委員会
委員長 服部 美奈 宛
5. 問い合わせ先：
g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp

●研究委員会 委員長 森下 稔

今期の研究委員会委員長を杉村会長より拝命いたしました。ご期待に応えられるよう精一杯努めます。3年間よろしくお願ひ申し上げます。新委員で集まり、以下の方針を固めました。研究委員会としては学会科研採択を目指すことが最大の任務と心得ます。科研費審査制度の大改革を踏まえながら、複数の科研申請を準備し、採択状況に応じて学会科研に位置づけます。将来的には、科研をはじめとする会員の研究費獲得を研究委員会が支援できるようになればと考えており、その基盤形成を試みます。また、学会科研などの会員による共同研究の成果を大会時の課題研究に設定します。大会3日目の最後でも、参加会員の多くが喜んで残っていただける企

画運営が望ましいと考えています。さらに、山内前委員長が始められたラウンドテーブル企画についても、若手研究者支援として大変有意義ですので、継続して企画・実施します。

● 紀要編集委員会 委員長 日下部 達哉

今年度より紀要編集委員長を仰せつかりました、日下部でございます。よろしく申し上げます。3年の任期中、前期を委員長として、また後期を副委員長及び委員として、編集幹事の牧貴愛先生、副委員長の澤村信英先生と共に学会の最重要事業の一つである紀要編集に携わらせていただきます。

本学会の紀要は、これまでの諸先輩方、前委員長の江原裕美先生、杉村美紀先生のご尽力もあり、毎号のように活況を呈しています。第56号には、23本の投稿論文があり、形式審査によって21本が査読に付されることになりました。また投稿締め切りは毎年1月20日と7月20日(当日消印有効)となっております。次の第57号の投稿締め切りは2018年1月20日(当日消印有効)です。各国の研究はもとより、比較教育学の可能性を広げるような新しい視点からの、渾身の力を込めた論文の投稿もお待ちしています。

【原稿提出・連絡先】

〒739-8529 広島県東広島市鏡山1-5-1
 広島大学教育開発国際協力研究センター内
 日本比較教育学会紀要編集委員会事務局 宛
 Tel : 082-424-3721 (牧貴愛 研究室)
 082-424-6246 (日下部達哉 研究室)
 Fax : 082-424-6958 (広島大学教育開発国際協力研究センター)
 Email : jces.hirodai@gmail.com

● 国際交流委員会 委員長 黒田 一雄

これから3年間、精一杯努めますのでよろしくご指導ください。国際交流委員会では(1)会員が参加・発表可能な海外関連学会・教育関連国際会議の情報の学会 Web ページを通じた周知、(2)若手研究者海外学会派遣・招聘プログラムの検討、(3)CESA(アジア比較教育学会)、CIES(北米比較国際教育学会)、CESE(ヨーロッパ比較教育学会)、NORRAG(国際教育政策・協力ネットワーク)等、海外主要学会及びユネスコ等の国際機関との交流促進のための国際共同研究プロジェクトの企画をしていきたいと考えています。会員の皆様方からの情報提供・ご提案やご協力をお待ちしています。

この場を借りまして、1件ご報告です。CESAが2018年5月10~12日に、カンボジア・シュリムアップで開催予定です。エントリー切は本年10月15日です。

<https://cdri.org.kh/cesa/callforpaper>

●RICE 担当理事 山内 乾史

「比較・国際教育情報データベース(RICE)」担当理事を拝命した神戸大学の山内です。よろしく申し上げます。RICEは約18年間にわたり、初代・窪田眞二先生と第二代・長島啓記先生が育ててこられた学会の財産です。これを引き継ぎ発展させていくべく、微力を尽くしたく思います。ただ、RICEの発展に関しては会員各位のご協力が不可欠です。何卒、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

会員の皆様が活用しやすいように、また入力しやすいように、新しい機軸を打ち出そうと考えていますが、私自身がシステムを理解して慣れるのに少しお時間を頂戴したく存じます。後日改めてお願いをさせていただきます。

●世界比較教育学会(WCCES)

担当理事 杉村 美紀

日本比較教育学会はWCCESの創立以来のメンバーであり、今後も杉本均前担当理事をはじめ歴代の担当理事の方針を引継ぎ、理事会への参加や他国・地域の比較教育学会との連携など有意義な関係構築に努めたいと思います。次のWCCESの第17回世界大会は2019年5月20~24日にメキシコ比較教育学会が中心となり、メキシコのカンクンで開催される予定です。(https://goo.gl/En53GB)

●教育関連学会連絡協議会

担当理事 澤野由紀子

このたび杉村美紀新会長より教育関連学会連絡協議会担当理事を仰せつかりました。教育関連学会連絡協議会は2013年4月に発足した日本の教育関連学会の緩やかな連携組織ということです。今後日本比較教育学会の代表として連絡協議会の総会等に参加し、皆様にその動向をお伝えさせていただくとともに、本学会からの意見なども提案していきたいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

2016年度 決算報告

ウェブ版では非公開

2016 年度 決算報告 (続き)

ウェブ版では非公開

2017年度 予算案

ウェブ版では非公開

● 新入会員 (2017年2月～9月入会申込順)

ウェブ版では非公開

■お知らせ



ウェブ版では非公開

(2017年9月18日現在の会員数 983人)

● 年会費納入のお願い

年会費納入状況をご確認いただき、未納分がある方は下記の口座へ早めのご納入をお願いいたします。紀要は年2回発行ですが、本学会では当該年度の会費納入を確認後、学会紀要『比較教育学研究』をお送りしています。3年を超えて会費未納の方は会員資格を失います。

〔郵便振替口座〕 00820-6-16161

日本比較教育学会事務局

ご所属先を通じて納入、所属機関名で振込を行われる場合は、必ず事務局へご連絡をお願いします。

「学生会員」として登録されている会員で、所属・身分等の変更により「学生」でなくなった方は、会員情報管理システムにて通常会員へ資格変更の上、通常会員としての年会費 (10,000 円) をお支払いください。

● 学会への寄贈図書紹介

以下の図書を本学会にご寄贈いただき、厚くお礼を申し上げます。紀要及び研究報告書の寄贈は、数量多数のため掲載を割愛させていただきますので、ご了承ください。

- ・秋田喜代美編『学びとカリキュラム』（岩波講座教育 変革への展望5）岩波書店、2017
- ・阿古智子・大澤肇・王雪萍編『変容する中華世界の教育とアイデンティティ』国際書院、2017
- ・犬塚典子『カナダの女性政策と大学』東信堂、2017
- ・児玉奈々『多様性と向きあうカナダの学校』東信堂、2017
- ・坂野慎二『統一ドイツ教育の多様性と質保証—日本への示唆』東信堂、2017
- ・杉村美紀編著『移動する人々と国民国家—ポスト・グローバル化時代における市民社会の変容』明石書店、2017
- ・竹腰千絵『チュートリアル の 伝 播 と 変 容 — イ ギ リ ス から オーストラリアの大学へ』東信堂、2017
- ・トニー・ワグナー（陳玉玲訳）『未来の学校 テスト教育は限界か』玉川大学出版部、2017
- ・日英教育学会編『英国の教育』東信堂、2017
- ・馬場智子『タイの人権教育政策の理論と実践—人権と伝統的多様な文化との関係』東信堂、2017
- ・平田利文編『アセアン共同体の市民性教育』東信堂、2017
- ・本所恵『スウェーデンにおける高校の教育課程改革—専門性に結び付いた共通性の模索』新評論、2016
- ・梁 炳贊・李 正連・小田切督剛・金 侖貞編著『躍動する韓国の社会教育・生涯学習 — 市民・地域・学び』エイデル研究所、2017

図書・刊行物の送付、学会運営に関する連絡

〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1
 上智大学グローバル教育センターB1
 日本比較教育学会事務局（丸山研究室）
 E-mail: jcesjimu@outlook.jp

会員情報、入退会、会費、システム、HP等について

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-1
 第2ユニオンビル4F
 (株)ガリレオ東京オフィス学会業務情報化センター内
 日本比較教育学会事務局
 Tel : 03-5981-9824 Fax : 03-5981-9852
 E-mail : g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp
 URL : <http://www.gakkai.ne.jp/jces/>